

3. 河川整備計画の目標に関する事項

3.1 河川整備の基本理念

山国川では、河川や流域の治水、利水、環境に関する現状や課題を踏まえ、以下を骨子とする河川整備を目指します。

<治水>

- 生命・財産を守る川をつくり維持する。
- 地域と一体となった防災・減災を目指す。

<利水>

- 水の恵みと生命育む流れを守り伝える。

<環境>

- 山国川固有の生命を育む水辺環境を守り伝える。
- 名勝耶馬溪等の歴史・文化・景観を守り伝える。
- 県境や上下流を繋ぐ利用環境を目指す。

山国川河川整備の基本理念を以下に掲げます。

「子供たちに繋ごう！耶馬溪・山国川のくらしと自然」

3. 河川整備計画の目標に関する事項

3.2 河川整備計画の対象区間

本計画の計画対象区間は、山国川水系の国管理区間※とします。

※一級河川には、国土交通大臣が管理する区間と都道府県知事が管理する区間があります。

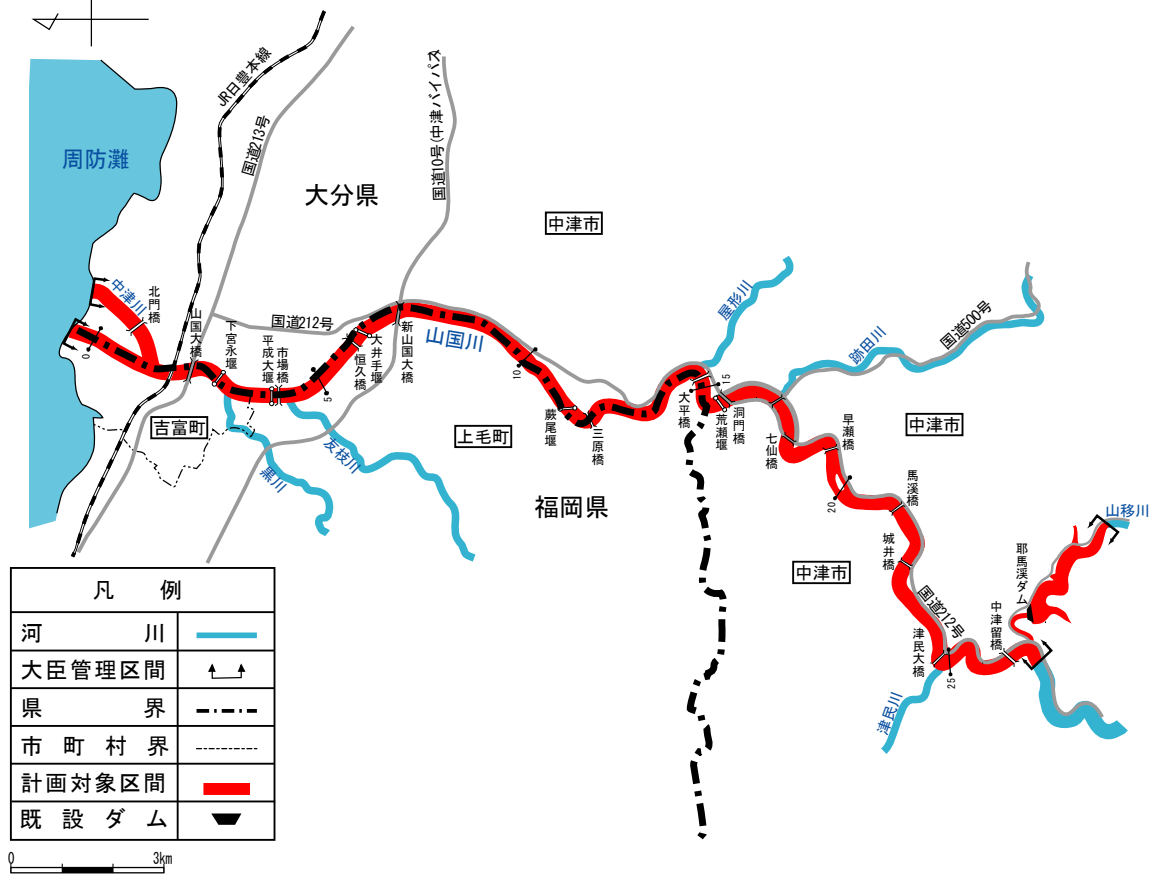


図 3.2.1 山国川水系整備計画対象区間図

表 3.2.1 計画対象区間（国管理区間）

河川名	上流端	下流端	区間延長 (km)
山国川	左岸：大分県中津市耶馬溪町大字柿坂ソノ 327 番地 1 地先 右岸：大分県中津市耶馬溪町大字大島字中曾 2224 番地先	海に至る	27.6
中津川	山国川からの分派点	海に至る	1.4
山移川	左岸：大分県中津市耶馬溪町大字山移字普門寺 3578 番 2 地先 右岸：大分県中津市耶馬溪町大字笹ヶ谷 1716 番地先	山国川への合流点	7.5
合計			36.5

3.3 河川整備計画の対象期間

本整備計画は、概ね30年で実施することを目標としています。

なお、本計画は、現時点の流域の社会経済情勢・自然環境状況・河道状況等に基づき策定されたものであり、これらの状況の変化や新たな知見・技術の進歩、災害等の変化により、必要に応じて適宜計画の見直しを行います。

3.4 洪水、高潮、地震・津波等による災害の発生の防止または軽減に関する目標

(1) 洪水対策

洪水対策の計画対象降雨は、戦後最大規模の降雨であった昭和28年6月の降雨（概ね40年に1回の確率で発生する規模）とし、この降雨により流れ出る流量4,100m³/s（下唐原）のうち、既設の耶馬溪ダムにより450m³/sを洪水調節し、河道の整備目標流量3,650m³/sを安全に海まで流下させるため、堤防等を整備します。

さらに、既設の堤防については、洪水に対する所要の安全性を確保することとします。

なお、内水被害が発生する恐れのある区域においては、土地利用状況等を踏まえ、地域との連携のもと、被害の軽減を図るべく内水対策に努めます。

また、堤防整備等のハード的な対策はもとより、関係機関と連携のもと、河川情報の提供やハザードマップ作成支援等のソフト的な対策を進めることで、総合的な洪水対策を実施します。

3. 河川整備計画の目標に関する事項

表 3.4.1 河道の整備目標流量

河川名		目標流量 (m ³ /s)	地点名
国 管 理 区 間	山国川	2,000	柿 坂
		3,650 [4,100]	下唐原
		3,900	金 谷
		2,750	小犬丸
	中津川	1,150	小 祝

※ []内は、既設耶馬溪ダムによる洪水調節前の流量です。

- : 基準地点
- : 主要な地点

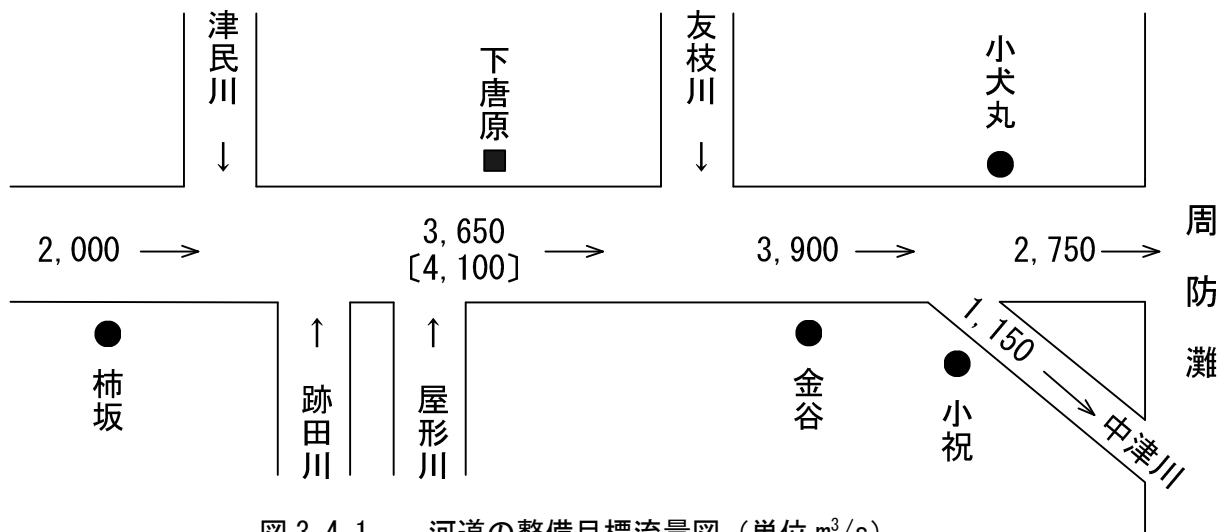


図 3.4.1 河道の整備目標流量図 (単位 m³/s)

※[]内は、既設耶馬溪ダムによる洪水調節前の流量です。

(2) 地震・津波対策

発生が危惧される東南海・南海地震等の大規模地震に対し、堤防等河川管理施設の安全性と津波による影響を検証したうえで必要な対策を実施します。

(3) 河川の維持管理

河川の維持管理に関しては、洪水、高潮等による災害の防止または被害の最小化を図るため、堤防・護岸・水門（樋門樋管）等の河川管理施設や河川内の樹木及び堆積土砂の適正な管理を行います。

(4) 危機管理対策

洪水、高潮、地震・津波等による被害の防止または被害の最小化を図るため、ダム、堰、排水ポンプ場、水門（樋門樋管）等の河川管理施設の適正な操作を行います。特に、洪水時に操作が必要な耶馬溪ダム及びゲート操作により洪水を安全に流下させる必要のある平成大堰については、目標とする洪水を安全に流下させるために、操作規則等に基づき適正に操作します。

既存の堤防については、洪水における浸透や浸食に対する所要の安全性を確保することとします。

また、洪水、高潮、地震・津波等が発生した場合には、河川巡視を行い、河川管理施設等の被害の早期発見に努めます。

さらに、災害時における情報の充実と共有を図るため、「水防連絡会」等の会議の開催や防災訓練の実施等、関係機関や地域住民等と連携した総合的なソフト対策を展開していきます。

3.5 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標

(1) 流水の正常な機能を維持するため必要な流量の確保

農業用水や都市用水が安定して取水されるとともに、魚類等の生息環境や水質、河川景観等を維持するため必要な流量として、下唐原地点で概ね $2\text{m}^3/\text{s}$ の確保に努めます。なお、当該流量は、水利使用等の変更に伴い増減するものです。

表 3.5.1 流水の正常な機能を維持するために必要な流量

地 点 名	期 別	流 量
下唐原	通 年	概ね $2\text{m}^3/\text{s}$

3. 河川整備計画の目標に関する事項

3.6 河川環境の整備と保全に関する目標

(1) 動植物の生息・生育・繁殖環境の場の保全

山国川の貴重種としては、キシツツジ、タコノアシ、ハマサジ等の植物や、オヤニラミ、アカザ、カブトガニ、ハクセンシオマネキ等の魚介類が確認されるなど、多様な動植物が生息・生育・繁殖しています。

これからも、山国川の多種多様な動植物が生息・生育・繁殖できる水辺環境を目指してモニタリングや保全に努めます。

(2) 名勝耶馬溪等の歴史・文化・景観等の保全

山国川の中流部には、菊池寛の小説「恩讐の彼方に」の舞台としても有名な青の洞門、競秀峰があり年間約170万人の観光客を集客するほか、下流の中津川沿いには、福沢諭吉旧邸と並び中津市街地の観光スポットの中核をなす中津城があるなど、山国川沿いの名勝耶馬溪や史跡、文化財等は、流域にとって重要な観光資源となっています。

これらの名勝耶馬溪等の歴史・文化・景観等を後世に引き継ぐため、関係する文化部局等の機関と連携し保全に努めます。

(3) 河川利用の場としての整備

山国川の河川空間は、水辺では釣りや水遊び、堤防敷では散策やジョギング、河川敷では各種スポーツ、イベントなど、市民の憩いの場として利用されています。また、河川沿いを走る西日本一長いサイクリングロードは再整備が検討されており、耶馬溪ダム湖では水上スキーの国際大会が開催されるなど、その利用も近年多岐にわたり、利用者からのニーズも多様化しています。

これらの河川利用へのニーズや、「河川環境管理基本計画」を踏まえ、さらに、河川固有の自然と触れ合え、快適に利用できる河川空間の提供に努めます。

(4) 水質

水質については、下水道等の関連事業や関連機関、地域住民との連携を図りながら、現状の良好な水質を維持するよう監視や保全に努めます。